

東京都知事 石原慎太郎 様
世田谷区長 保坂 展人 様
杉並区長 田中 良 様

基礎調査情報の公開と都市計画案の見直しを求める要請決議

東京都は、京王線笹塚駅からつつじヶ丘駅間の連続立体交差化事業について、将来の線増線は地下鉄化とするが、在来線は高架化する都市計画案を決定しようとしています。

私たち京王線沿線に住む住民は、安全かつ、よりよい環境を求めるがゆえに、東京都が中心に進めている京王線連続立体交差事業の高架化に反対し、高架計画を伴わない事業への転換を求め、本日集いました。

予定されていた説明会が3.11大震災の影響で延期になったことから、当然、新たな事態に対応した見直しが必要とされるものと期待していました。しかし、その期待は全く裏切られました。

5月に強行開催された都市計画案と環境影響評価準備書の説明会で明らかになったことは、第一に、高架計画を含む都市計画案について、新たな大震災に対応した見直しを何ら行う姿勢がないこと。第二に、経年40年以上の八幡山駅、笹塚駅付近の高架を残す地下案との比較しか行っておらず、より安くできるはずの2線2層等の全線シールド地下方式の比較設計を最初から除外していること。第三に、都市計画案や比較案の事業費の積算根拠を絶対に明らかにしない姿勢を示したこと。第四に高架による騒音公害、日照・景観被害や緑化等の環境条件を、構造形式の比較考慮項目に入れていないこと、です。

説明会では東京都の責任者は、「積算根拠について現段階で明らかにすると、混乱をもたらす」「積算根拠を、示しても住民には理解されない」と暴言をはきました。

しかしながら、原発事故を契機に、情報を隠してきた行政に対する信頼は完全に崩壊しています。

側道や駅前広場、交差道路の都市計画に責任をもつはずの世田谷区や杉並区の担当課が、関連事業を規定する「連続立体交差事業調査報告書」を見ておらず、構造形式の比較検討や事業費の積算根拠も知る必要がないとしてきた姿勢は、理解できません。ここには、地方分権のかけらも見られません。

そこに、6月の世田谷区議会で、情報公開と住民参加を公約にして当選した保坂展人新世田谷区長が、「積算根拠について東京都に対し情報開示を求める」と答弁したことは重大です。その履行を求めるものです。

東京都は、積算根拠を含む基礎調査資料である連立事業調査報告書を、当該自治体に正式に配布し、議会や住民に全面公開するべきです。この資料を基に、問題点をオープンに議論をすることを保証して初めて、都市計画における住民参加と民主主義はなりたつと考えます。

3・11以降、日本は大きな曲がり角にあります。調査報告書では、開かずの踏切対策としては道路単独立体交差事業の方が安いと評価していながら、あえて鉄道の連立事業だけで2200億円（交差道路・再開発予算は別会計）もの巨額な事業費を使う都市計画案は、安全と環境の視点から慎重に検討し直されなければなりません。

未曾有の歴史の転換点に立った今、私たちは、関係するそれぞれの自治体の長に英断を求めるものです。

記

1. 東京都は、京王線笹塚駅～つつじヶ丘駅間の都市計画案及び比較案の積算根拠を公開していただきたい。
2. 東京都は、連続立体交差事業調査報告書を当該自治体に正式配布し、全面公開したうえで、議会や住民が同報告書をもとに議論できるようにすること。世田谷区・杉並区はこれを東京都に要求すること。
3. 都市計画手続きをいったん止め、震災対策や環境政策を踏まえ、全面地下案を含めた総合評価を行い、同都市計画案や関連事業の抜本的な見直しに着手すること。

以上

2011年7月24日

京王線地下化と緑のまちづくりを進める会